たった13年まえの教訓を忘れたのか！

24年1月1日襲ったのは「能登半島地震」でした。栃木県でも震度4と報じられました。多分、最近頻発の地震で、茨城県沖か千葉県沖で、と横揺れがする中で考えておりました。しかし、速報で震源地が能登半島で発生したものと分かりこれは大変と思いました。原発銀座の北陸地方で発生したからです。

地震が起きるたびに心配されるのは福島第一原発事故の悲惨な状況です。その教訓は使用済核燃料の冷却と原子炉の溶融を防ぐ電源の消失でした。しかも速報後、志賀原発の外部電源が焼失したとショッキングな報道です。周辺の住民は家屋倒壊や山地の地滑り、道路の隆起・陥没などと共に生きた気がしなかったのではないでしょうか。もっともこのように考えが及んだ人は福島第一原発の教訓を持って生活してきた一部の人かもしれませんが。

たった約13年まえの教訓です。当時のマスコミも、原発が溶融から水素大爆発、放射能汚染の拡散と続く中で、周辺住民の避難や安全地帯を求めて逃げ惑うさまを見て、原発存在そのものが地震列島（火山列島）・プレートが交錯する日本では「危険」であると判断し、そのように報じられました。世論の多くも原発廃棄、ましてや休止中の原発再稼働や新設に反対するという傾向に導かれていきました。ところが安倍・菅・岸田と続く自公政権は主要電源として原発を諦めるどころか新設を含めて核依存を深めています。改めて、研究用原子炉などを除き「**原発はいらない・廃棄するしか道はない**」を運動として、強力に推し進めるしかありません。

労働大学企画編集委員　**飯田　邦雄**